

東京新聞の記事の紹介（2025年6月20日）

（精神科医療、それでもやめない「身体的拘束」イギリスやドイツの取り組みにみる「拘束ゼロ」への道は）

6月19日、参院議員会館で開かれた院内集会では、精神科医療における身体拘束ゼロをめざす取り組みが報告された。イギリスでの研修経験をもつ精神科医は「一対一の看護や本人の要望にイエスで応えることが鍵」と語り、ドイツでは拘束に裁判所の許可が必要な制度があることも紹介された。日本は拘束件数も入院日数も桁違いに多く、「治療のための拘束なんてない」と語る当事者の声が印象的だった。当日は地域の現場からの声として戸田も発言し、「拘束ゼロ」は制度の改革だけでなく、私たちの関わり方そのものが問われていると感じさせられた。

（記事はこちら → <https://www.tokyo-np.co.jp/article/412828>）

精神医療フォーラム 2025のご案内

精神医療フォーラム 2025

— 拓く、現在地を越えて —
先陣を切る、4組のダイアログ



近田真美子	×	高木俊介
木村朋子	×	山口弘幸
長嶺真智子	×	戸田竜也
大塚淳子	×	塩満卓

蓑島豪智 岡崎伸郎（座長）

2025年9月13日（土）10:00～17:00（開場9:30）

会場 ハートピア京都 大会議室

（京都市営地下鉄 丸太町駅より徒歩約1分）

定員 200名 ※要事前申し込み

日本病院・地域精神医学会ホームページ

「精神医療フォーラム 2025 申し込みフォーム」より、

当日までにお申し込みください。

主催 日本病院・地域精神医学会 共催 「精神医療」編集委員会

お問合せ 日本病院・地域精神医学会 事務局 TEL. 03-3812-3603 E-mail: info@byochi.org

参加費

学会員	無料
一般	3000円
障害当事者・学生	1500円

対話し、対話し、対話する

日本病院・地域精神医学会の会員が会員へ問いかける、スイッチインタビュー、参加者が加わるリフレクションが、その先を拓いていく...

ダイアログ1 『精神医療の専門性』を語る

近田真美子会員 × 高木俊介会員

質的研究や哲学対話により、「精神医療の専門性」を問い続けてきた精神看護学研究者と、ACT-Kはじめ、京都を拠点に地域精神医療の先端を拓き続けてきた医師による対話。
・近田真美子...大阪成蹊大学看護学部 教授。近著に、「精神医療の専門性」。「精神医療」編集委員。
・高木俊介...たかぎクリニック 院長。一条寺プリユワリー 代表取締役。「精神医療」編集委員。

ダイアログ2 「患者の尊厳を求める『共事者』として」

木村朋子会員 × 山口弘幸会員

東京地業研や東京精神医療人権センターで、ごくあたりまえの権利を求めてきたPSWと、当事者運動や病地学会を牽引した父の意志を継ぎ、同学会に加わった研究者による対話。
・木村朋子...にしの木クリニック PSW。東京精神医療人権センター 運営委員。病地学会 理事。
・山口弘幸...鎮西学院大学 総合社会学部 教授。障害当事者家族。病地学会 評議員。

ダイアログ3 「身体拘束ゼロへ向かう看護」

長嶺真智子会員 × 戸田竜也会員

身体拘束の暴力性に目をそらさず、看護実践のなかで「拘束ゼロ」への歩み続ける看護師と、地域社会のなかにもある身体拘束の構造を問い続ける、相談支援専門員による対話。
・長嶺真智子...東京武蔵野病院 精神科認定看護師。精神科認定看護師の会 副会長。病地学会 理事。
・戸田竜也...一般社団法人 SCRAP&BUILD 代表。作業療法士・相談支援専門員。

ダイアログ4 「ソーシャルワーク教員とライフワーク」

大塚淳子会員 × 塩満卓会員

精神科病院や保健所での精神保健福祉実践を経て大学教員となった両者が、人材を養成しつつ、様々な社会活動や「精神医療国家賠償請求訴訟」へコミットする歩みを巡る対話。
・大塚淳子...帝京平成大学人文社会学部 教授。病地学会 監事。「精神医療」編集委員。
・塩満卓...佛教大学社会学部 教授。近著に、「ケアの脱家族化」。

クロージング・ダイアログ 登壇者の感想と対話

座長 蓑島豪智 理事長(病地学会) 岡崎伸郎 編集代表(雑誌「精神医療」)

2025年9月13日（土）、京都・ハートピア京都にて「精神医療フォーラム 2025」が開催されます。

テーマは「拓く、現在地を越えて」。

精神医療の専門性、共事者、身体拘束ゼロ、ソーシャルワークなど、精神医療に関わる4組の対話が行われます。戸田も登壇予定です。登壇者の経験や問いをもとに、これからの支援のかたちを考える一日です。一般3000円、当事者・学生1500円、学会員無料。事前申込制です。ご関心のある方はぜひご参加ください。

（申し込みはこちら → <https://www.byochi.org>）